

「知的財産戦略ビジョン」 及び最新の検討状況について

2018年11月26日

内閣府知的財産戦略推進事務局

1. 新たな知財戦略ビジョン策定の背景

2003年 知的財産基本法に基づく知的財産戦略本部 設置

→ 毎年の「知的財産推進計画」に基づく政府一体の知財戦略の推進

「知的創造サイクル」の基盤確立による「知財立国」の推進

- 特許審査体制の強化(世界最速審査達成等)
- 紛争処理機能の強化(知財高裁設立等)
- 営業秘密の保護強化
- 中小・ベンチャー企業への知財活用支援強化
- 国際標準化戦略の強化
- 産学連携機能の強化
- 模倣品・海賊版対策の強化

2013年 「知的財産政策ビジョン」策定

2012年 クールジャパン担当大臣設置

近年進む大きな社会変革

イノベーションの変質(供給主導から需要主導へ)

人々の価値観の変化(モノよりコト、共感、シェア)

データ、人工知能、IoT等の技術的進展

少子高齢化、環境エネルギー等の社会課題

国際情勢の変化(米中の存在感拡大、グローバルなプラットフォーム企業の台頭)

Society5.0実現

SDGs

✓ 知的財産のあり方は「独占」「交換」「保護」から「共有」による利活用拡大へ

✓ 毎年の推進計画の見直しのみではなく、中長期のビジョンを政府全体で共有し、将来社会に必要なシステム設計を行う必要

2025～2030年頃を見据えた新たな知財戦略ビジョンの検討

→「知的財産推進計画」による実行 1

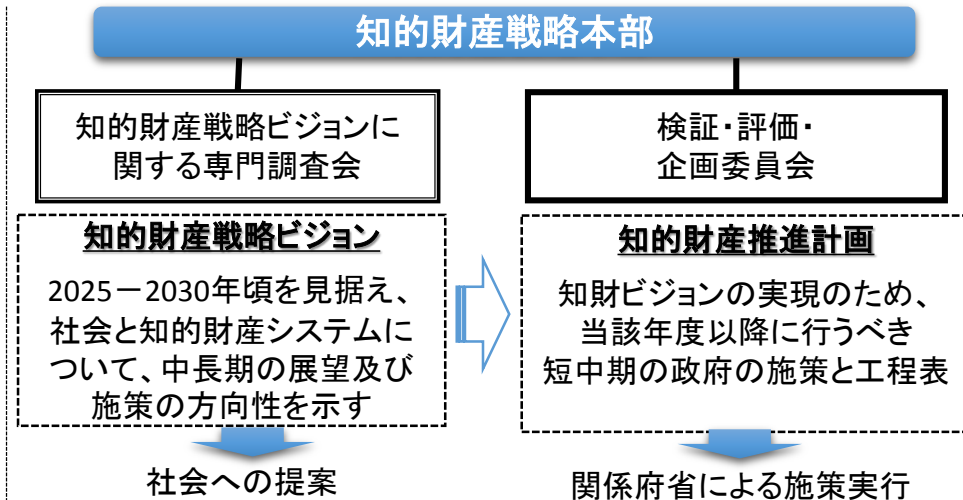
知的財産戦略ビジョンに関する専門調査会について

参考

- 知的財産戦略ビジョンは、2025～2030年頃を見据え、社会と価値の生みだし方、それを支える知財システムについて中長期の展望及び施策の方向性を示し、毎年の「知的財産推進計画」の大目標として策定。
- ビジョンの考え方を発信・共有して実践や意識改革を促すとともに、未来についての自由で幅広い議論を続け、ビジョンの有効性を検証。

知的財産戦略ビジョンに関する専門調査会 構成員 ※敬称略

| 氏名 | 所属 |
|--------|--|
| 安宅 和人 | ヤフー株式会社CSO |
| 池田 祥護 | 学校法人新潟総合学院理事長／日本青年会議所2018年度会頭 |
| 梅澤 高明 | ATカーニー 日本法人会長 |
| 落合 陽一 | 筑波大学学長補佐・准教授 |
| 富山 和彦 | 株式会社経営共創基盤 代表取締役CEO |
| 川上 量生 | カドカワ(株)代表取締役社長 |
| 妹尾 堅一郎 | 産学連携推進機構 理事長 |
| 中村 伊知哉 | 慶応義塾大学大学院メディアデザイン研究科 教授 |
| 日覺 昭廣 | 東レ(株) 代表取締役社長 日本経済団体連合会知的財産委員長 ※日覺委員は7月25日にビジョン委員を辞職 |
| 林 千晶 | 株式会社ロフトワーク 共同創業者、代表取締役 |
| 原山 優子 | 前 総合科学技術・イノベーション会議 議員 |
| 渡部 俊也 | 東京大学政策ビジョン研究センター 教授 |

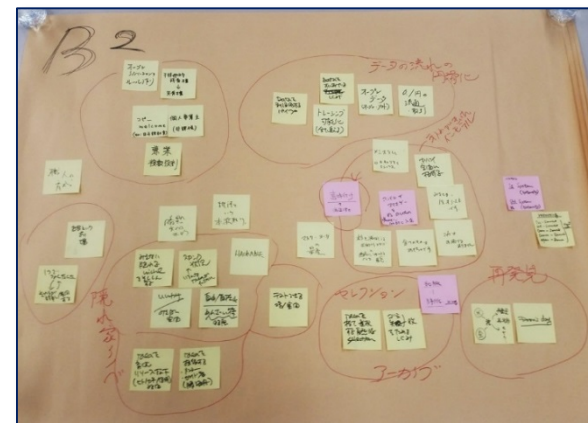
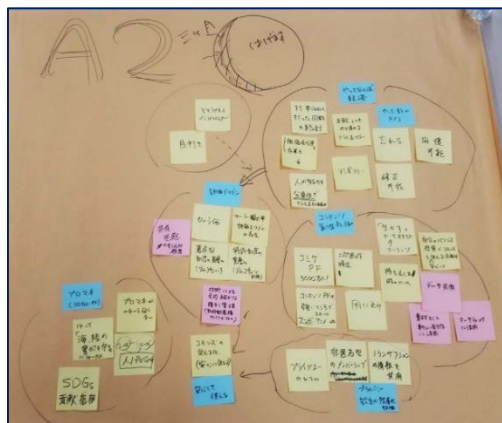


- 第1回専門調査会合 2017年12月26日
 - ・未来の社会像について
- 第2回専門調査会合 2018年2月2日
 - ・未来の社会像における「価値」とそれを実現するための「仕組み」について
- 第3回専門調査会合 2018年3月1日
 - ・クールジャパン戦略による日本ブランドの強化について
 - ・将来の知的資産システムの在り方について
- 第4回専門調査会合 2018年3月23日
 - ・知的財産戦略ビジョンの実現のための全体的な枠組及び個別システムについて
- 第5回専門調査会合 2018年4月20日
 - ・「知的財産戦略ビジョン」素案について
- 第6回専門調査会合 2018年4月25日
 - ・「知的財産戦略ビジョン」素案及び今後の進め方について

知的財産戦略ビジョンの検討の進め方

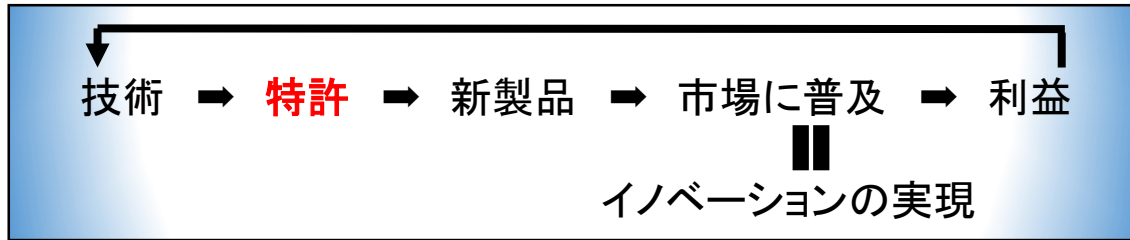
参考

委員をグループに分け、ポストイットを利用して討議し、全体で発表・議論する
「グループディスカッション形式」を採用し、「チャタムハウスルール」(*)の下、活発な議論を行った
(*)会議における発言を引用する場合は発言者が特定されないようにするというルールを参加者間で共有し、自由闊達な議論を確保。



20世紀 = D > S の時代

S リードのリニアモデル = 核となる IP を押さえて



- ➔ 市場の獲得 維持
- ➔ 利益 ➔ 技術に再投資

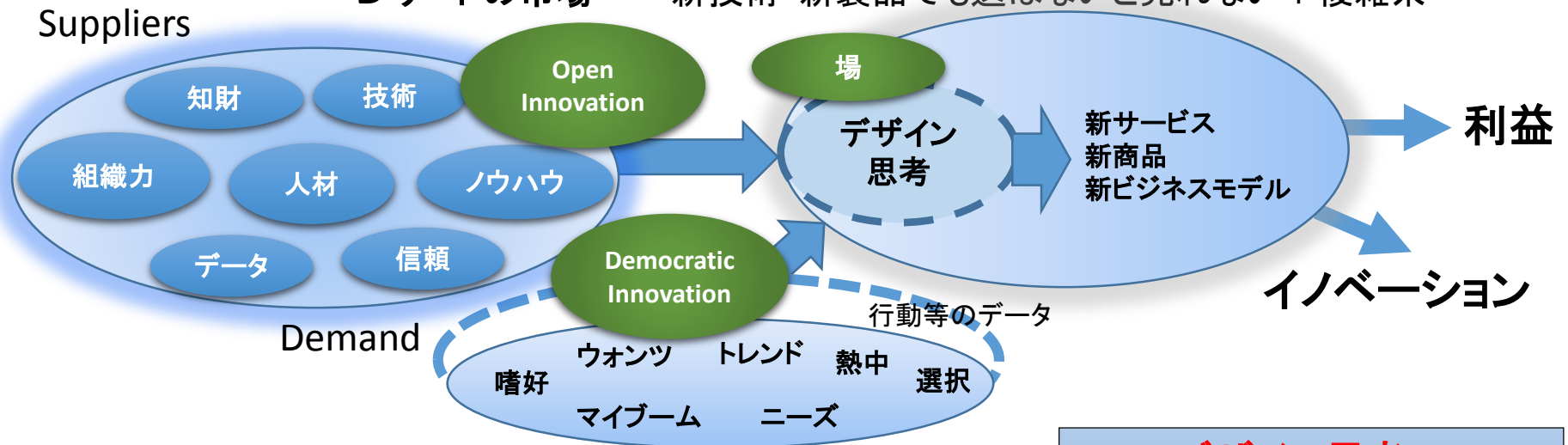
プロパテント戦略

モノ、供給サイド、技術、パイプライン中心

21世紀 = D < S の時代

サービス、需要サイド、デザイン、プラットフォーム中心

D リードの市場 = 新技術・新製品でも選ばないと売れない + 複雑系



- ・ D を理解したビジネスのデザイン
- ・ 必要な資産の選択 組合せ

がイノベーションの鍵

デザイン思考 & プロイノベーション戦略

2. 「知的財産戦略ビジョン」の構成

現在

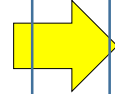
2025

ターゲット未来

2030

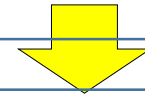
1. 将来につながる現在の環境変化や兆候

- ・供給サイド経済から需要サイド経済へ
 - ・技術進展 (IoT、ビッグデータ、人工知能など)
 - ・情報発信やモノ・コンテンツづくりの主体の広がり
 - ・シェアリングエコノミー、「コト消費」や「共感」(いいね!)
 - ・少子高齢化、人生100年時代
- …など

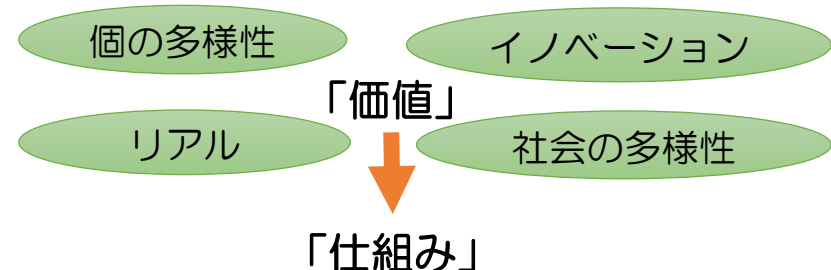


2. 予測される将来の社会像

- ・AI・デジタルの進展→「リアル」の価値向上
 - ・生き方・働き方の多様性・選択肢の拡大
 - ・会社など組織への所属の柔軟化
 - ・幸せの多様化、新しい価値感 (シェア、貢献)
- …など



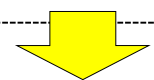
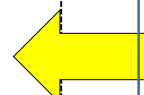
3. 将来における「価値」とそれを生む「仕組み」



- 多様な個性を生みだす仕組み
- 多様な個人が活躍する環境整備
- 知識のプラットフォーム化
- 多様な価値を内包する社会システム

4. 日本の特徴

- ・バランス感覚 (例: 三方よし)
 - ・先端技術の社会受容
 - ・新たなものを受け入れての編集能力
 - ・均質性 (抜本的な見直しが必要)
- …など



5. 将来の「仕組み」に向けた検討課題

目指すべき社会の姿

＝「価値デザイン社会」

3. 目指すべき「ビジョン」と今後の検討方向性

「価値デザイン社会」への挑戦 ～ 夢×技術×デザイン=未来 ～

－ 価値デザイン社会 －

経済的価値にとどまらない多様な価値が包摂され、そこで多様な個性が多面的能力をフルに発揮しながら、「日本の特徴」をもうまく活用し、様々な新しい価値を作って発信し、世界の共感を得る

①脱・平均とチャレンジ

尖った人、チャレンジする人や組織が我が国から生まれるとともに、世界から集まる

②分散と融合

個人が有する複数の能力・アイデアを、プラットフォームを通じて他人の能力・アイデアと適切に組み合わせ、新しい価値を生む

③共感・貢献経済

日本の社会、文化、方向性に共感を持つ海外の理解者、「ファン」を積極的に受け入れる

個々の主体の強化

組み合わせの仕組み

国全体のブランド化

①新たな価値創造を行える人材の育成

②価値メカニズムの見える化とそれを活かした組織経営

③多様な価値を見える化、評価するシステムや指標作り

④多様な価値を満たす事業にチャレンジするベンチャーを後押しする仕組み

⑤多様な人材・組織が集う場の形成

⑥SDGs等実現のための知的資産プラットフォーム

⑦次世代のコンテンツ創造・活用システムの構築

⑧クールジャパンの魅力分析・効果的発信

⑨クールジャパンを支える外国人等の集積・活用

⑩デジタルアーカイブの構築

具体的なシステムの例

4. 知的財産戦略本部会合:ビジョンの決定

■平成30年6月12日 知的財産戦略本部 総理の一日 総理大臣 首相官邸ホームページ
https://www.kantei.go.jp/jp/98_abe/actions/201806/12chizai.html



総理ご発言

「本日は、知的財産推進計画2018とともに、新しい知的財産戦略ビジョンを決定いたしました。

革新的なイノベーションにより、Society 5.0に向かって世界が劇的に変化しつつある中、知的財産の重要性はますます大きくなると同時に、多様な価値を反映して、その在り方も大きく変化しつつあります。

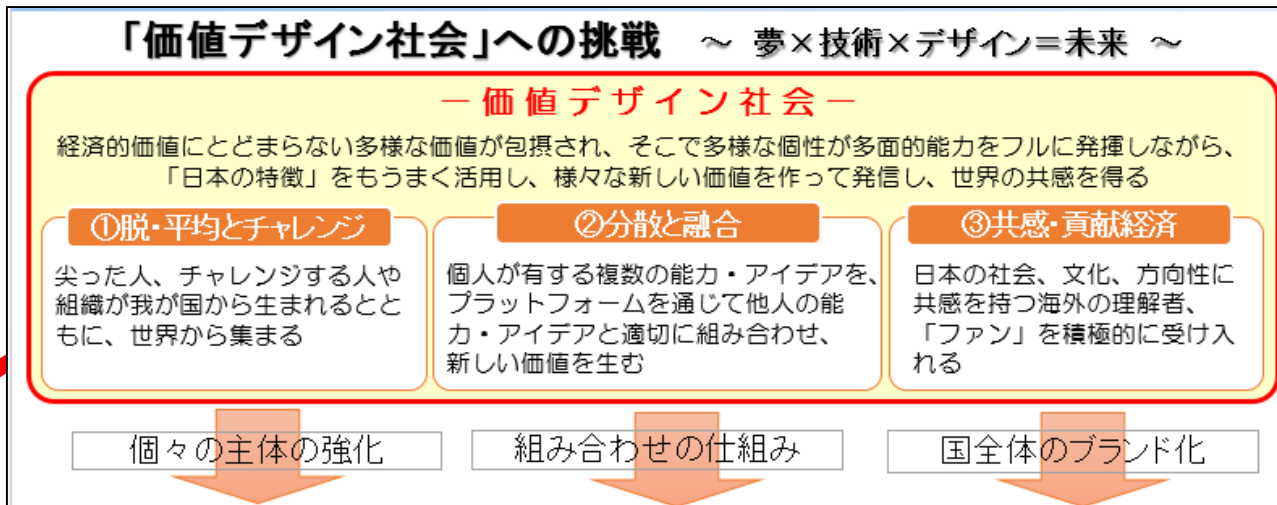
こうした時代の変化を先取りして、新しい価値を構想し世界に発信する。我が国がこれからも最先端の知財立国として世界をリードしていくとの決意の下、中小企業やベンチャー企業への支援強化、そして創造性あふれる人材の育成、さらに我が国の質の高い農作物、コンテンツの海外展開支援、また、クールジャパン戦略の更なる世界展開など、関係省庁は一丸となって大胆かつ具体的な政策を果敢に実行に移していただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。」

5. 決定後の進捗及び今後の予定

●スケジュール

- 第7回（7/24）
 - ①ビジョン公表・拡散・反響
 - ②今後の進め方
- 第8回（9/12）
 - ①価値をデザインするマインドを高めるための仕組み、
 - ②今後の進め方
- 第9回（11/16）
 - ①価値をデザインするマインドを高めるための仕組み
- 第10回（12/18） 未定
- 第11回以降（年明け～来春）：未定（具体化等）

6. 「価値デザイン社会」の実現へ向けた検討の全体像



価値をデザインするマインドを高めるための仕組みは？

尖った人の活躍
・尖った人をリスペクトする仕組み
・失敗を適正に評価する仕組み

枯れた技術の水平展開

共感をブランド化し
力学として活用

データ・AI

オープン
イノベーション

クールジャパン

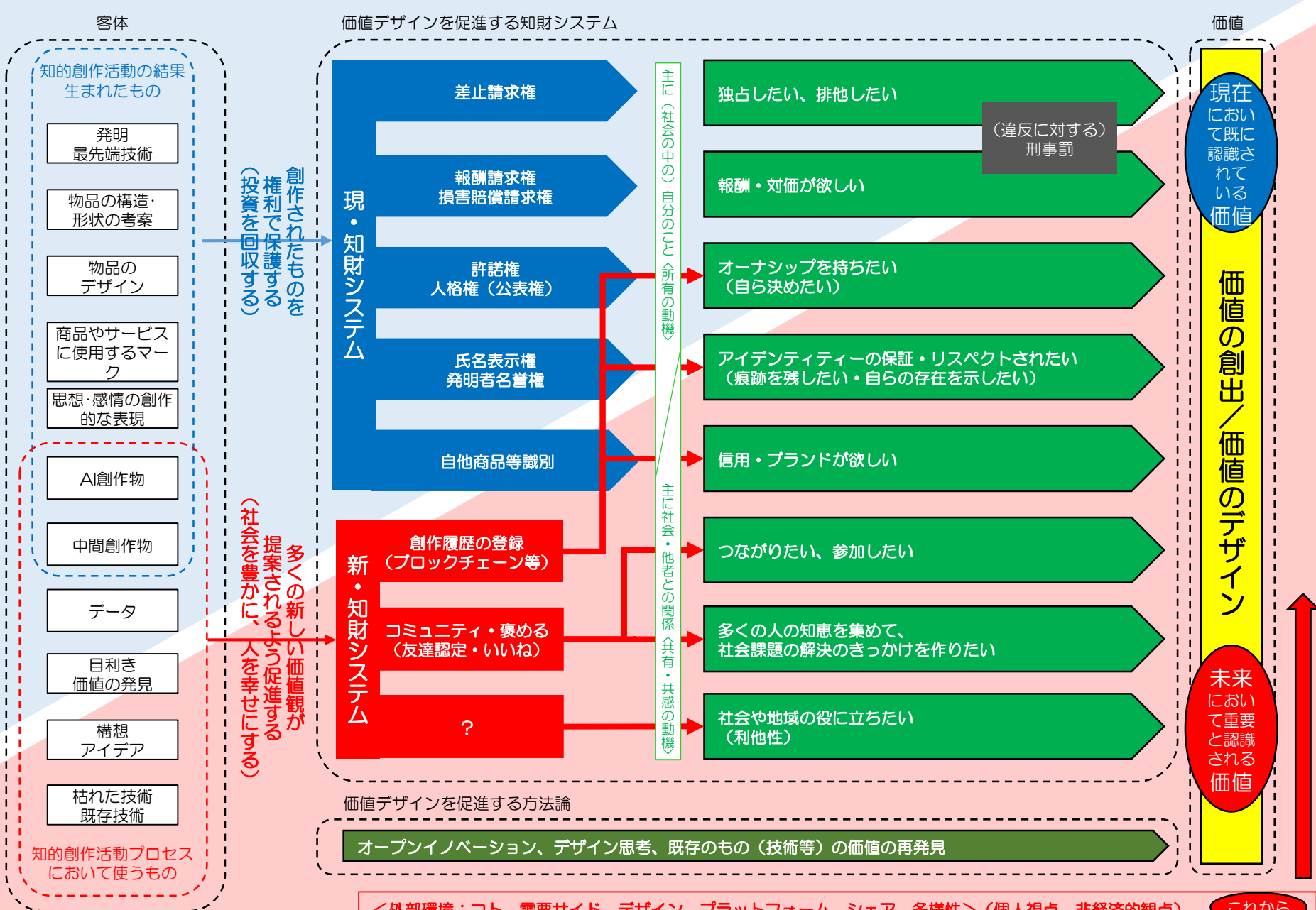
アート・ビジネス・
サイエンスの融合

・・・その他

「価値デザイン社会」を実現するための
知財に関連するシステムをデザイン

7. 現知財システムと新知財システムのイメージ例（案）

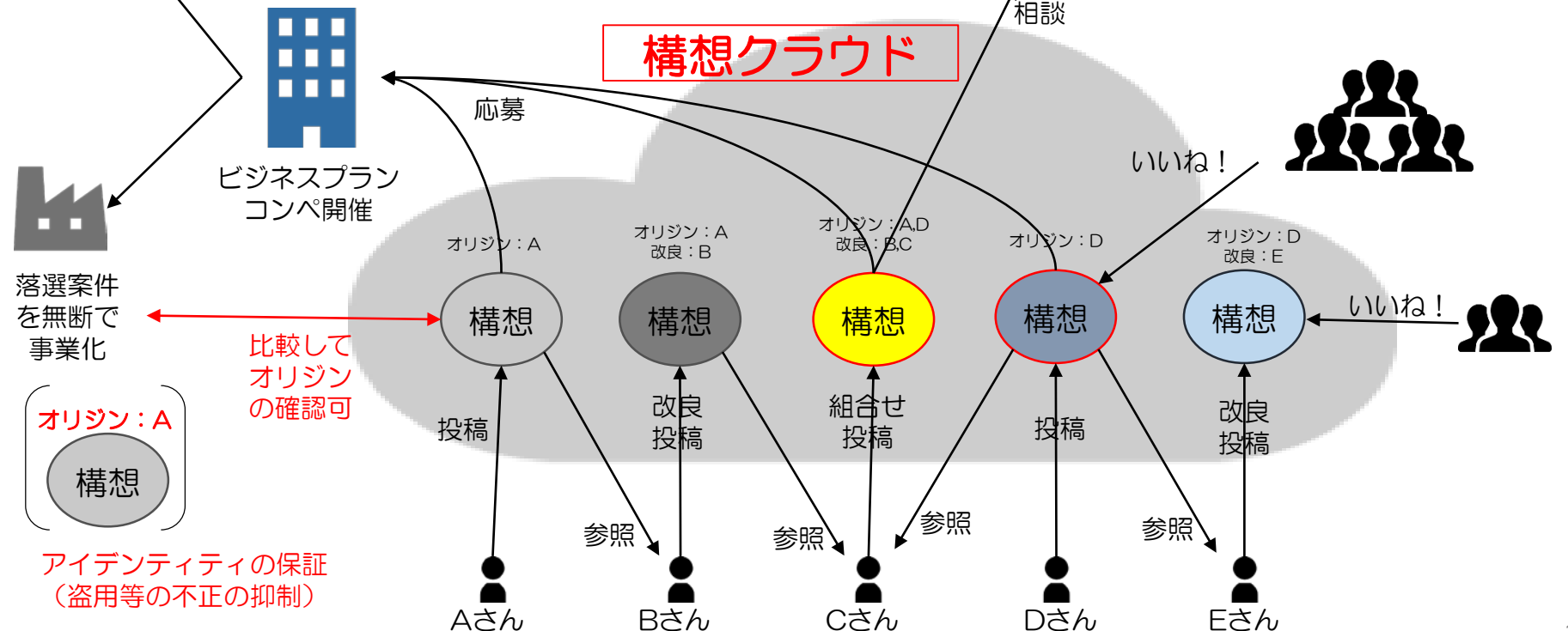
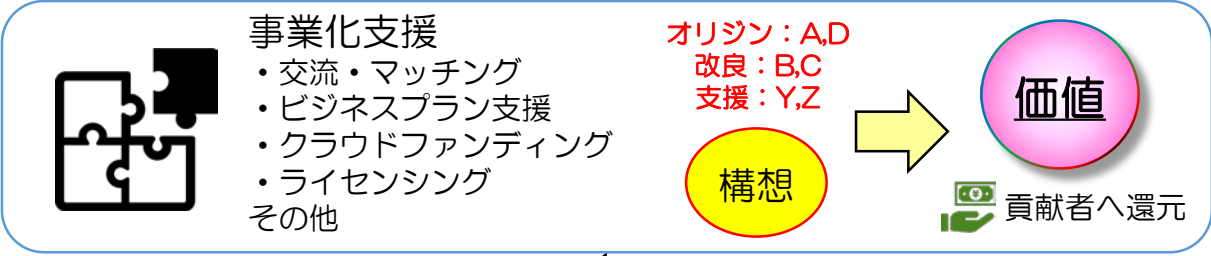
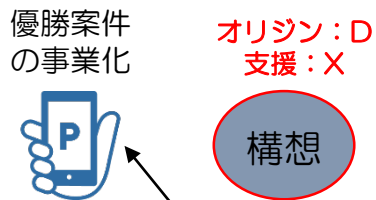
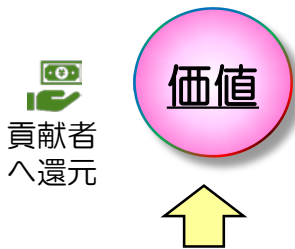
これまで（企業視点、経済的観点）＜外部環境：モノ、供給サイド、技術、パイプライン、独占、均一性＞



新知財システムを検討するための具体例（構想クラウドの例）

参考

- ・構想をクラウドへ預ける（参考：情報銀行、掲示板、ブログ、SNS）
「構想」は、夢やアイデア、ビジネスプラン、技術思想、著作物など、あらゆる可能性
- ・創作履歴（オリジン／参照・改良／支援）の管理 → アイデンティティの保証（参考：OSS、GitHub）
- ・ブロックチェーン等による管理 → タイムスタンプ、信頼性（参考：電子公証）
- ・閲覧ログの管理（足跡）、「いいね！」を番号を付与して管理（first finder）（参考：SNS）
- ・公開／非公開、公開時期・範囲の管理（参考：SNS）
- ・利用条件の表明（自由利用可、一定の制約・条件）（参考：Creative Commons）
- ・ピアレビュー（参加者同士の評価）による全参加者の格付けと治安維持（参考：Uber、Airbnb）



アイデンティティの保証
(盗用等の不正の抑制)